

〔新病害虫の診断・同定および未解明症状の原因と対策〕

プラタナスグンバイの発生状況と殺虫剤の効果

竹内浩二・大林隆司*

(環境部・*病害虫防除所)

【要 約】プラタナスグンバイは東京都全域に分布を拡大したが、プラタナス以外での寄生は認められなかった。また MEP50%乳剤（スミチオン乳剤）は、幼虫および成虫いずれに対しても高い効果がある。

【目 的】

プラタナスグンバイは国外から日本各地に侵入した侵入害虫である。本種の吸汁加害により、プラタナスの葉は6月下旬頃より11月の落葉期まで白～黄白色を呈し、樹幹全体が白みを帯びる著しい被害が発生する。東京都においては2001年に港区で確認されたが、その後の分布拡大を注視する必要がある。また、国外での報告によるとプラタナス以外の広範な植物に寄生するとされており、寄主拡大に注意する必要がある。このため、報告のある樹種などについて本種の寄生を確認する。また、登録薬剤の効果について明らかにする。

【方 法】

- 1) 分布および寄生樹種に関する調査については、防除所の巡回調査などの際に随時観察を行った。国外で寄生の報告がある属について、都内でプラタナスと同様に街路樹としてよく利用されている種を調査対象とした。
- 2) 薬剤散布試験においては樹木類のグンバイムシ類に対する登録である MEP50%乳剤（スミチオン乳剤）を登録（常用）濃度である1,000倍と1/10濃度である10,000倍で供試した。2004年11月16日に立川市のプラタナス葉から採集した成虫および幼虫をそれぞれ25頭プラタナス葉裏に接種し、ハンドスプレーで十分量(1000 /10a 相当) 散布した。試験は2連制で行い、散布2日後に生死の判定を行った。

【成果の概要】

- 1) 2001年では港区のみで確認されていた本種は、東京全域に生息域を拡大したことが明らかとなった(図1)。現在まで調査した区域でプラタナスが街路樹として利用されているところでは全て本種の寄生を確認した。
- 2) 本種の寄生は国外で寄生記録のあるツツジ科やブナ科、マンサク科などの都内で街路樹などとして利用される頻度の高い種を中心に調査したが、現在のところプラタナス以外では本種の寄生を認めなかった(表1)。
- 3) MEP50%乳剤の常用濃度および、その1/10濃度における本種幼虫および成虫に対する効果は高く、十分な防除効果が期待できると考える。
- 4) 今後も、都内における年間の世代数や発生時期、さらに寄主拡大についても注視していく。

(関東東山病害虫研究会報投稿予定)

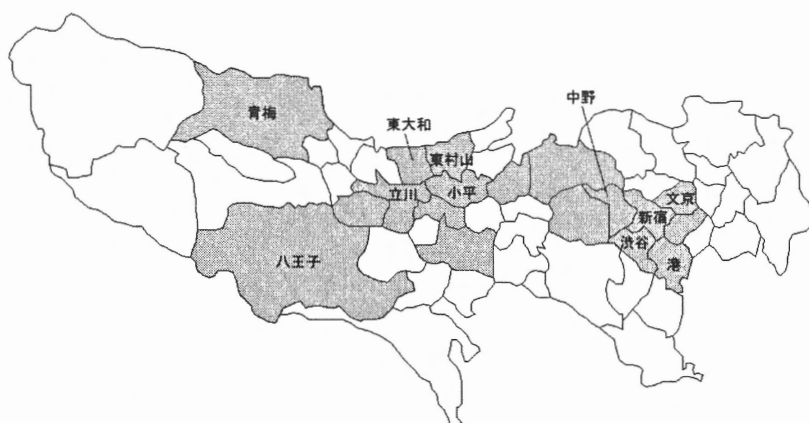


図1 都下においてプラタナスグンバイの発生が確認された地域

表1 プラタナスグンバイの寄生状況

科名	種名	寄生確認	科名	種名	寄生確認
スズカケノキ科 ^a	プラタナス	+	カエデ科 ^a	トウカエデ	-
ツツジ科 ^a	ツツジ	-	トチノキ科	トチノキ	-
ブナ科 ^a	クリ	-	ミズキ科	ハナミズキ	-
クワ科 ^a	シマグワ	-	ニレ科	ケヤキ	-
マンサク科 ^a	マンサク	-	バラ科	サクラ	-
	イタヤカエデ	-		ウメ	-
モクセイ科 ^a	キンモクセイ	-		ナシ	-

a) 国外で寄生記録あり

表2 プラタナスグンバイに対するMEP50%乳剤(スミチオン乳剤)^aの効果

	反復	補正死虫率 ^b (%)	
		1000 (常用濃度 ^a)	10000 (常用濃度×10)
成虫	1	100	100
	2	100	96
	平均	100.0	98.0
幼虫	1	100	100
	2	100	100
	平均	100.0	100.0

a) 樹木類のグンバイムシ類に対する登録

b) 対照区(水処理区), 供試虫数各区25頭